特別
へ4
8178
3

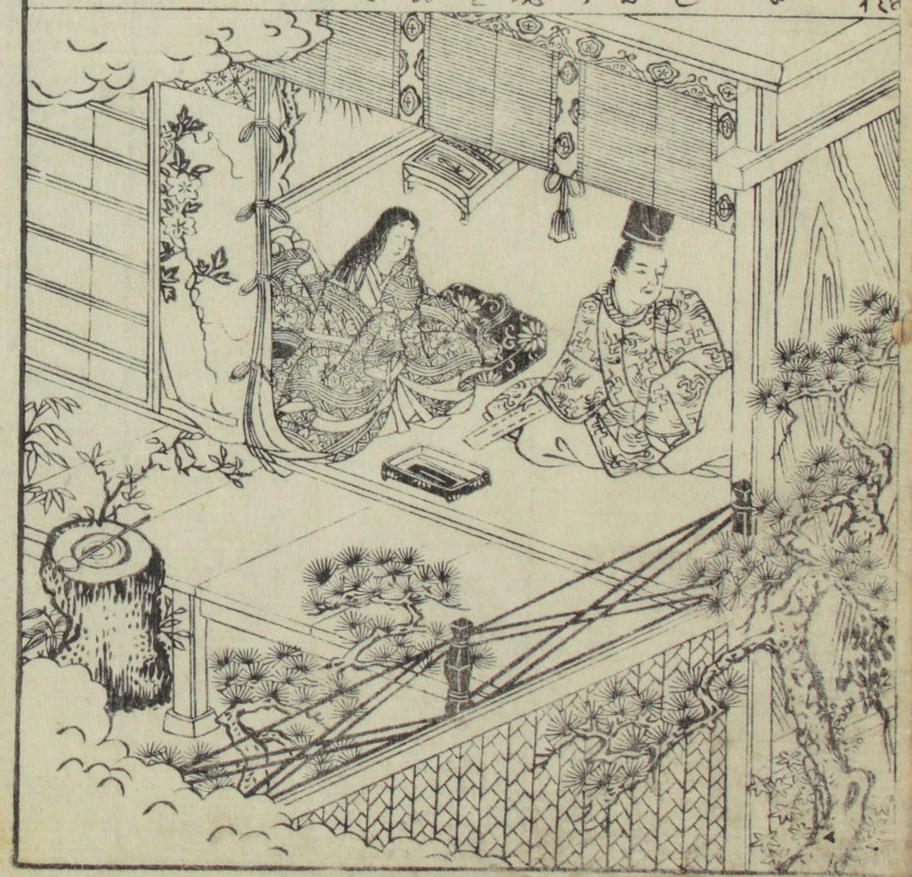
貴
ヘ4
8178
3

九郎判官義勝

義勝八津のむら山田坊の者のえ組うて。廣章夫婦をめけんそうの人こそのときハうほのつ士とめ。てつうひの。まち勝もその後ふあらうて。姫よりくろこの。横萩のたち白鬼ぬ四乃息女。白滝姫とこひてやりしに文かよあくハ北れと鄙人こして。姫つまなくゝやくへくる。そ成ぬ。りなれやりひとおハまこ。夜下にあり。とこさまに勝よのたあく。ゆまに。あをこうみてさに勝かちたゞ姫をゆさんべーとあーしばやゞこ姫のあうこ。やゞこふもかくらぬ。雲の白滝。このこ女ーいろ山田男よ

かくあざけつて。やはらけもどれ
こひさふらつてよりて。ひとり
ゐる。五月の梅雨の末はてがくま
山間の蔭よりも。ほのかに
けの。ものとぐれりの。ふりがんば
ぬかるぬすと。ぬ。ぬ。ふ
帝に奏しさぶらはと。ま勝が
家におくてまいる。宮廷
あさかるざ。天國の内銀
ま勝にあらりぬこれこそ。
みのおくろまことありて
かりかあれたるくから
ぬりへぬすれを

まの世でぬ
ぬ
きこと
ひべなるどや



なれ国と琴瀧

ふ乃ひとあかりは。ハ。の
南方士にして。ふ。ぬ。武蔵が
業のこに田とくこれるあるは
山中に入て猟せもとりに。ふ
は南海彩く。遠ざかりれて。
家かーこと。水陸と求きるふ
どりるふ。ぬ。ふ。ぬ。ふ。ぬ。ふ
ぬにこ。ま。て。みの一つ一ぬ。の。の。
お門より二年ぬ女のいと。ま。う。ぬ
が。ぬ。ぬの花のいとーく。咲れきこる
と。ぬ。ぬ。ぬ

橫乃和歌三首

橫さんさくといふ　伊勢蒲郡

いつことも忘れぬ山路の入あひ
ことと思ひ橫さん行くまり

もぬを人といふ　和泉式部

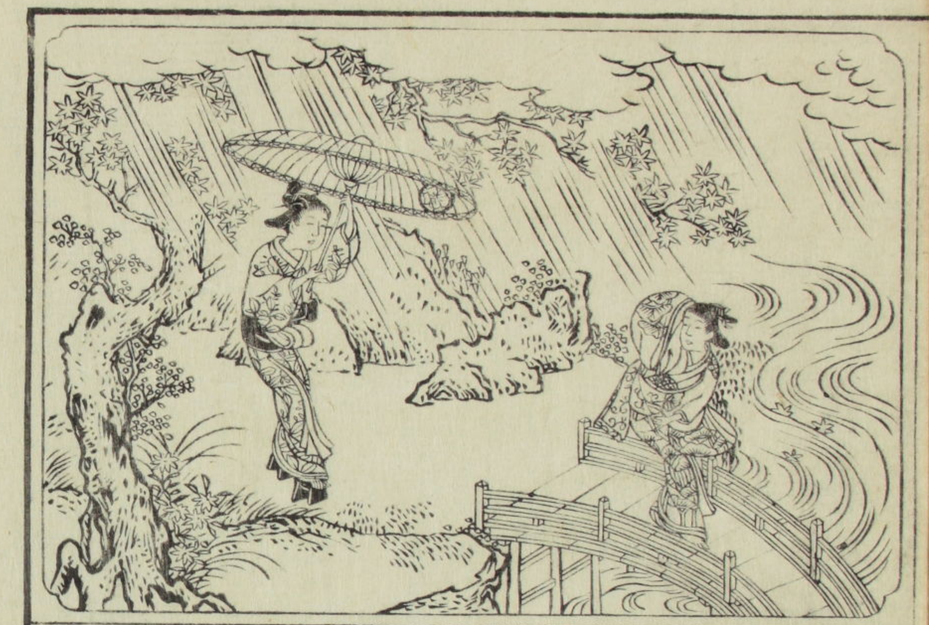
わが恋の名をもぬを人たづねて
さく一枝ハ折くかつる

もの淋世といふ　俤成卿女

頼みあ天
きけとなほ花のうち世とかりふを
なとうとう見あやまれつるか

螢乃かそひ

ほたるはなすゆ氏とものかたをかし
ありむかづられ忘れるこちとぐ祇
を也ふと光源氏かほるを大ぜ
只物をうすゆ姫をかとらぐ
ふくぐこなーけるおりほのらを
うひかぶとうて忘てくあてや
ゆりてんとゆりしがけるさ
かるぶとやくあ門ちうすのふ
つくありーぬ九帳乃うげみかく
しふひこりかりけかりと忘の
んこよをてむろこの忘れ所に
変ゑせくゆとのこ　つろり
ゆしこうに　ゆら
かるろ　ほるこ



紅葉乃山海三首

四方山

海一面をはるばる海氏の
めぐみなりしをしたうむれ
はまさん和尚

和尚

和尚でもあるまいが
湯あがりさまでなりやす
とあるなり

関海山

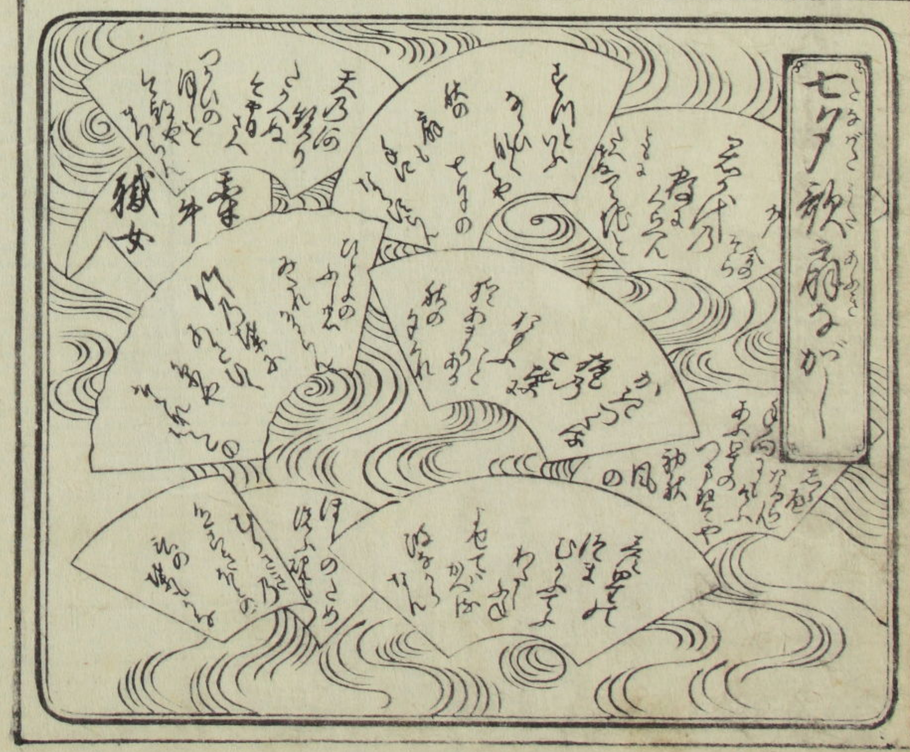
いなるを山松ちまをもみを
あてをとはさまをもみを
はい一番なるとう

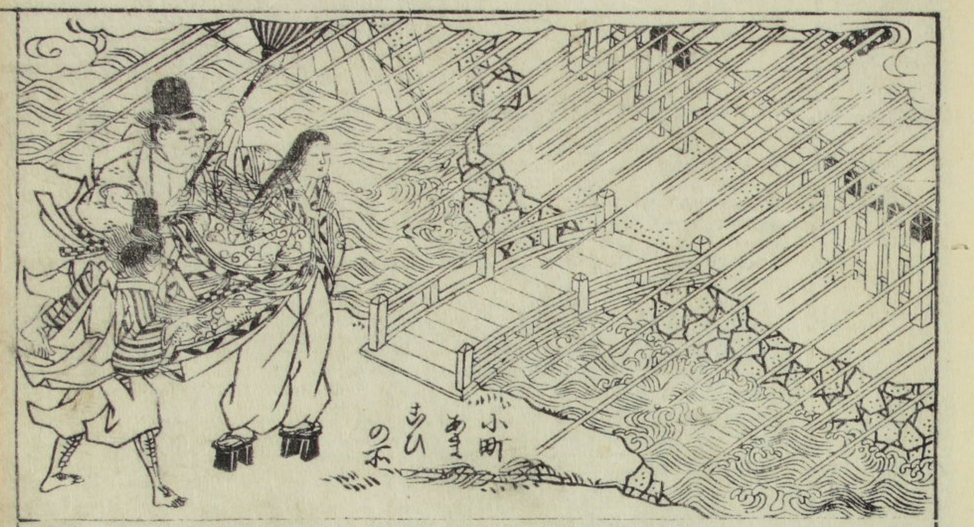
春は

春はみどりのさかりをそのあれ
すゑは秋月をあれひとりはいと
ゆきこうあやしいろなきまし
ゆきこうあやしいろなきまし
ひなごきてなりしまこと
あるきこのこぬまるれやまあも
いとこうひとびてゆきこはるを
えもいとびすどはこうこうべと過ふ
おろし雪まろぐせをを行て
いとおほうはなごんとくはけか
もしえとしなりどうこうでなる
くこうひあるとゆきはなるを
がうあを書かはあり

月乃ふみ

ひつき　はつる月　とハ正月と云
いさらい月　きさらぎ月　とハ二月と云
小草萠月　やよい　弥生月　とハ三月と云
さつき月　素月　とハ四月と云
卯月　あのむら月　とハ五月と云
さつき　月見月　とハ六月と云
たちま月　さなぶり月　とハ七月と云
みな月　風ぎり月　とハ八月と云
なゝかま月　ほゝぎり月　とハ九月と云
あきつき　ちゝ月　とハ十月と云
もゝ月　紅葉月　とハ十一月と云
月見月　とハ十二月と云
なゝ月　ゆみち月　とハ九月と云
小雨かゝり月　ねさ月　とハ十月と云
かみな月　ふれ月　とハ十一月と云
ふゝ月　ふるゝ月　とハ十二月と云
ゆき月　とハ十一月と云
去ハす　去ぬ月　とハ十二月と云
師走月　ゆき月　とハ十二月と云





小町

小町ハ小野小町ハ出羽の国の人にて美人なりしゆゑ世に聞えたる歌人なり
ゆゑ世にもてはやされて後通路のなりしとこゝに示す乃
ちこれなり
小町ハ美人なりしゆゑ世にもてはやされたる歌人なり
ゆゑ世にもてはやされて後通路のなりしとこゝに示す乃
ちこれなり
花の色ハうつりにけりないたづらに我身よにふるながめせしまに
花の色ハうつりにけりないたづらに我身よにふるながめせしまに
花のいろハ色あせにけりいたづらに我身よにふるながめせしまに
花のいろハ色あせにけりいたづらに我身よにふるながめせしまに
花の色ハうつりにけりないたづらに我身よにふるながめせしまに
花の色ハうつりにけりないたづらに我身よにふるながめせしまに
花の色ハうつりにけりない

絵図法師奇こと

絵図ハ信濃長門ゝ肥後等ゝ号を肥後等ゝ慣のゆゑ世ふるもの世の人ゝ奇ゝ成時伊豆ゝ国ゝ下ゝ人ゝ見ゝ

○天の河ゝ水ゝ流ゝ

○めぐりあふ梅の花とびうゝ

○天の河ゝ水ゝ流ゝ

三位殿百四十四

大清の天子ゝ位ゝ

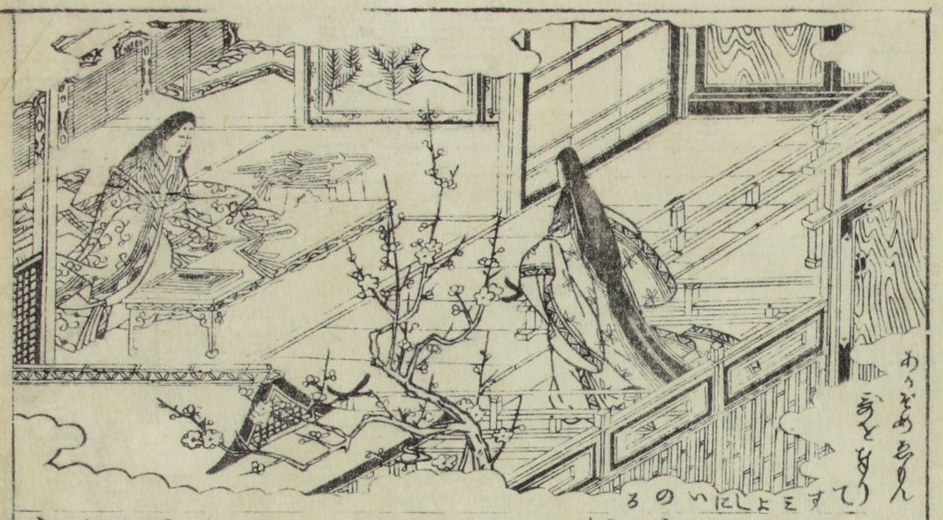
○さてもどの神もわれこそひゝ

○みれどもとの神もわれこそひゝ

○さてもどの神もわれこそひゝ

源三位頼政

○さてもどの神もわれこそひゝ



海業の死のり

福禽寺の門内のうつくしき海業の花の枝をあり
れてあれとあるこの門内のみちのひろき間
ハ大よ夏ハ。秋の盛さなれとも海のとくゝ
まのこと時ざりしかハ見ハりハかりてそ
ゆくりなりの日入ときハ花とくゝ咲ける。
ときハのごとくさきうしなとうて秋の盛
ハりあるもうとをゞとくゝんぞりく
ゞ花とうりなれと福禽寺ハ海業
ときまこのこの海業の花ハ扱まぬ人ハ花社
ひとんなれ者一首しゆくまとれハゞけを
ときうめを。ときのとしハ法ろハやあるハ
まくゞをしてまゝ人ゞられ秋とう
ときうなれゞ盛秋ときまらかきまりて
又ときとれいさうなとこ元とありかり。
めふとハ海業ともわれとをとろ
ゆくしひ今ゆとゞあすありゞなれ

赤染衛門ゞ奇のり

大江の峯用とのハ赤染衛門ゞ夫ハ
ひとうあるくゝゞひてんゞとうゞこれゞ
母のあるんひとゞ盛秋ふまゞ
の書をまて我ゞひとうんとりのうろ。うゝんと
いの命ひとうゞ盛もうとんとそうゞ。
その歌の美ふとくゝりの色義ひ幣とうゞ
あまゞのとゞんゝろゞ。まかりら病のあくつゞかう
ゝろとこ。又八傳のかゝゞ業れりまとうやはとうら
月のあとうひとうりゞうゝれりうゝまとくゝう
とゝまりもあ月とゞ盛ひてつゞとうゝろ。母のりの
こゝりとゞもゞず婚ゞとうゝあれりのふまりひゞの
うゝようれふとゞく。あくゝよまりうゝりハ作ゞうあ
月とうれりけてうゝりうゝれゞ美ひと秋業ふあまゞて
びとうひうれゞりりまふとゞ病ゞまねゞ色別月とりとてを
うゝうゝとこ。ふとあれんあとうゝねうゝざりうとゝや

車道望遠奇のう

上西門院の小宰相の局とてときめきたまひしかども、ものうきかたのみ多かりしかば、世をのがれ、出家をこそ思ひたちたまへ。されども、なほ

小大全ぜんの事

優成仁奇のう

[illegible]

繪本源見物

画人　月岡芳年

寶暦十一年　辛巳春正月發行

大坂書肆　心斎橋東詰十間　吉文字屋市兵衛

江戸書肆　日本橋通三丁目　同　次郎兵衛

女中日用可觀書目錄

女子教訓文　女の男文まなびしたいろは仕業てれんとあつめ仕れ親方一切まで実あるす　全部一冊

女文通義の筆　女文章ちしまのはな女女雅を　全部一冊

絵本孝行列　われこと地んなの志川あること尽くくうく下一半もしとあるす　同　三冊

同　大川長山　いせおろうはは長のみこ　同　三冊

同源氏物語　源氏やうをあ中とれやに少て絵ば　同　三冊

同　三　繁乃花　むしのたくさんとうしゆ坊を加へていまの人をさとさんを引かう　同　三　冊

同　百　將　傳　教訓大将軍の武功すぐれたるとあつめかきくあつめられたるもの　同　三　冊

同　和　歌　集　うたをよくていろく文様のうへ　同　三　冊

同　非　文　庫　女のりてちをみてきこと言ふくあつめのすくわかいく教訓ふかくあつめ　同　五　冊

極　楽　思　案　集　一名安中ちあの法とふ女の妙薬けしやの教ありまを一切のひじ主安をうれ　同　三　冊

世　説　麒　麟　演　世の中のいろきるものの法ありとかいろひくうり　同　二　冊

日　本　嶽　時　記　見聞雜作　年中一切のすれはすこしも月くをもとめて人名をあきらかにとる　同　二　冊

小　野　小　町　風　雅　百　わかあろよりうをを人ようしおらせてもるるくうみのなかう　第入

清　水　東　の　水　ありしうき和歌あづのちくさくりのしる　空　部　二　冊

古　今　百　人　一　首　歌　繪　一　名　女の人くさと一名をうたの名　空　部　六　冊